別紙様式

令和５年度　学校評価シート

学校名：　和歌山県立田辺高等学校　　校長名：　西嶋　淳

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- **文武両道を基本として、生徒一人一人の資質と能力の向上を図り、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する学校**
- **合理的な思考、積極的な行動ができるとともに豊かな情操をもつ生徒**

学校評価の公表方法

ホームページ掲載等により、保護者、学校関係者、地域住民等に重点目標及び具体的取組を示すとともに、評価の結果を広く公表する。

現状・進捗度			
	A	十分に達成している。	（80%以上）
	B	概ね達成している。	（60%以上）
	C	あまり十分でない。	（40%以上）
	D	不十分である。	（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（３月２２日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	・新学習指導要領の理念及び生徒の進路希望を実現できる授業改善 ・観点別学習状況の評価の充実と改善 ・ICT 機器の効果的な活用の充実	B	全教科において、新しく開設された２学年の科目を中心とした研究授業を年間２回実施し、日々の授業改善につなげる。	・研究授業の実施状況と授業改善の状況（アンケート結果等）	B	11 月を中心として研究授業を行った。人数の少ない教科においては２回できなかったところもあった。アンケート結果に基づき、各教科で改善策を話し合う機会を設けた。	来年度も新課程における新しい科目を教えることになるので、引き続き教材研究に力を入れたい。3 学年とも観点別評価になるため、校務支援システムの設定等を適切に行い、正確な評価が出せるよう十分に注意したい。生徒用ＰＣの授業への活用方法について考えていきたいが、そのためには電波状況の改善が必須である。
			観点別学習状況の評価について、昨年に定めた評価規準の充実、改善を図り、各教科との連携を密にする。	・評価規準に基づく評価状況及び年度末に提案される改善案の状況（教職員評価等）	B	昨年に引き続き観点別学習状況の評価方法について研究を深めた。各教科でも正しい評価について教科会議で話し合った。	
			ICT 機器を効果的に活用する場面を各教科で設定し、共有・研究する機会を設ける。	・各教員の授業における ICT 活用の状況（アンケート結果等）	B	ＩＣＴ機器は各教科で活用されているが、生徒用ＰＣの活用は一部の教科に限られている。	
2	・生徒一人一人が主体的に自らの進路や社会の未来を切り拓いていける資質・能力を育成するための系統的・体験的な教育活動の提供 ・多様な進路希望に対応し、個々の進路意識を高め、その実現を可能とする情報と機会の提供	B	ユネスコスクールの取り組みの中心として ESD を位置づけ、ESD 推進室を新設するとともに、組織的に生徒の探究活動を活性化させる。	・ESD 及び進路に係る総合的な探究の時間等における生徒の活動状況（アンケート結果、教職員評価等）	B	探究に関する教員研修を実施し、ESD の推進を図った。また、当初の計画通りに総合的な探究の時間や SEEKER（生徒国際委員会）の活動を外部機関と連携しながら円滑に実施できた。	探究活動の充実化のため，総合的な探究の時間の内容を再検討する。また、SEEKER 活動に多くの教員が関わり、探究型研修旅行を継続して実施することで、探究活動を深化させたい。今年度は、コロナ禍が終わり、大学見学会を実施したが、参加人数が少なかったため、全体への周知の方法、金額等について再検討していきたい。また、探究活動を生かした進路指導について検討を加え、進路指導の充実を図っていきたい。
			生徒・保護者及び担任・学年団に対して、適切な情報提供を行い、ガイダンス機能・カウンセリング機能の充実を図る。	・模試分析会（３学年５回、１・２学年３回）、個人面談（５回以上）の実施状況及び Classi の活用状況（教職員評価等）	B	模試分析会を計画通り、模試の都度に実施する事が出来た。Classi を用いて、生徒、保護者に対して、必要な連絡を行っている。	
			社会人講師、大学教授、教育 NPO、卒業生等多彩な外部人材による講義・講演・演習等の機会を設け、生徒一人一人の進路目標の具体化を図る。	・外部人材等を活用した各種取り組みの実施及び成果の状況（アンケート結果等）	B	社会人講話、ライブカレッジ、教育 NPO の講話(JSBN、Makers University)等を通して、進路意識の高揚を図ることができた。	
3	・卒業後に生かすことのできる、社会人として身につけておくべきマナーやモラルの獲得をめざす指導の充実 ・心身の健康保持・増進や衛生環境の保持について学び、自己管理に繋げることのできる能力の育成	B	服装・頭髪、交通ルール、スマートフォンの使用等について重点的に指導する期間を設定し、全職員による継続的な指導を行う。	・全教職員の共通理解のもとで行う計画的・継続的な指導の実施状況及び生徒の改善状況（教職員評価等）	B	アセムリーや HR または個別に啓発、指導を行ってきた。概ね守られている。	変わり行く社会の変化に学校の生徒指導もアップデイトしていかなければいけないと感じる。今一度校則等が時代に即したものなのか議論すべきではないか。本校の教育相談は多様な知識を有した教員が担当しているため充実した状況にある。しかし、１人への負担が多すぎる感がある。負担がかからないような配慮を願う。
			清掃活動や厚生委員会による啓蒙活動、外部講師による講習会の実施及びＳＣや外部機関と連携した個別の生徒対応を計画的に実施する。	・各取り組みの実施状況（アンケート結果、教職員評価等）	B	活発な厚生委員の活躍が目立った。現職教育実りあるものであった。SC、SSC、下部機関との連携も充実していた。	
4	・自主的・主体的な学校行事及び生徒会活動の企画・運営の支援 ・効果的なクラブ活動の工夫 ・併設中学校と連携・協同した行事や活動の企画・運営の支援	B	・生徒会役員及び執行部の役割や責任についての意識を高めるとともに、自主的・主体的に活動に取り組める支援を行う。	・生徒総会及び各種委員会等における提案内容や議論の状況（アンケート結果、教職員評価等）	B	生徒やクラスからの意見について、聞き取りや生徒会での議論、意見交換を行った。特に、クラブ活動の在り方や意義、行事内容の見直しについて、生徒なりに考え、自主的・主体的に取り組んでいけるよう支援していきたい。	文化祭は概ね例年通りの流れで行うことができた。学校行事全般の取り組みについて、多忙化解消や効率化、安心・安全への配慮などを踏まえ、取り組みについて整理していきたい。中学、高校それぞれの活動を充実させつつ、どのように連携を図っていけるか、時代の流れやニーズに対応し、伝統を継承しつつ新たなチャレンジで本校の特色を表現できればと考える。 　クラブ活動の在り方について、積極的かつ合理的に活動し、豊かさを持って学園生活を送れるよう、身近な課題を解決し、生徒が水彼考え積極的の行動できるよう支援していきたい。教育目標を達成するために、本校理想の境域目標を大切にしていきたい。
			・学習との両立を実現できる、効果的で活発、教育的かつ合理的なクラブ活動の運営を支援する。	・具体的取り組みの達成状況及び生徒の達成感や成長の様子等の状況（アンケート結果、教職員評価等）	B	感染症、熱中症、怪我や事故等の予防意識を高め、安心・安全かつ主体的・積極的で活発なクラブ運営に努めていきたい。合併や削減、クラブ自由登録について考え、工夫していきたい。	
			・各行事やクラブ活動等の実施について、中学校と連携・協同した企画・運営に努める。	・中高一貫校の特色を意識して実施された各種行事や活動の状況（教職員評価等）	B	文化祭やクラブ活動において連携した取り組みを行った。中学、高校それぞれで別で活動することで生徒の活動が保障できる場面も多く、活動を充実させられるよう施設や時間の調整に努めた。	

学校関係者評価（２月１３日実施）

・今後も学校外の力を活用して学校の変革に取り組んでいくなど、コロナ後の新たな教育の創造に教員集団が力を合わせて対応していってほしい。

・時代の流れでは全員クラブ制は廃止だが、何を学ぶための学校なのかを再構築する必要があると思う。

・教育に体験的内容が求められている。生徒にどんな力をつけさせたいかなど、修学旅行の目的を明確にすることが大切である。

・文化祭はみんなの力を結集して作り上げる貴重な機会であり、授業以外の重要な学びの場である。保護者以外の方々（地域、OB 等）が参加して楽しめる場ともなっている。

・情報リテラシー講演会や薬物乱用防止教室等の機会を今後も活用しながら、生徒にリスク管理も含めて教えていかなければならない。

・時代が変化するとともに、常識や価値基準が変化しており、そのことに学校が対応していくことが求められている。多くの人々は学校の取り組みを理解し、協力する姿勢を持っていると思う。